Wide Angle

んに惹か

年

一記念









作品展



写真集より夢のあと





与真学科選抜展専門学校九州ビジ

「桜島黎明」

※企画展観覧券で常設を併せてご覧いただけます。

■観覧料 一般200円(160円)

大学牛等100円(80円)

※()内は団体20名以上

表紙の写真「2023.02.25 大学の日常から」

石合光昭写真展

ねこ

2019年 有田工業高等学校デザイン科 卒業 2023年 九州産業大学芸術学部生活環境デザイン学科空間演出デザイン専攻 卒業 フィルムカメラを使用し、何気ない日常を大切に記録している。 2022年夏には青春18きっぷを使用してひとりでカメラ片手に青森ねぶた祭 を撮影する旅に出る。ねぶた祭りの写真展も計画中。

■発行/フォトガイドふくおか発行運営委員会 〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル205

☎092(287)5599 info@photoguide.fun □デザイン ………神谷風花 □代表・編集長 …村上博史 □印刷 ……株式会社伸和

※5・6月号の情報・広告のお申込みは 3月18日(土)~25日(土)までにご連絡ください

「一期一会の瞬間に自分が感じた感覚を残す」

「写真を観た人の瞬間と混ざりあい蘇らせる」

2023年2月、卒業シーズンとなり、写真学科のある各学校でも卒業制作展が開催される時期となった。私 は今までにも学生を取り上げた企画展を何度か開催してきたが、その最初の契機となった2021年9月に博 多阪急で開催した「Next Generation Artist@Fukuoka」には多くの学生に参加頂き、次世代のアーティ ストをご紹介できたと思う。その中で写真家として参加してくれていた津高凛優さんが、今年、九州産業大学 を卒業されるとのことで、今後の活動も含め、津高さんを取材させて頂いた。

津高さんは大分生まれ。写真は家族写真をよく撮影する機会が多かったとのことで自然とカメラに触れる ことが多かったという。6歳頃に自分専用のカメラを買ってもらったことをきっかけに撮影する楽しさを知っ た。「両親は家族との思い出を残す為に"人"の写真を撮っていたけれど、自分は人よりも自分が見たことや経 験したことが無かった"文化"に対して興味を持った」と話してくれた。その後、高校生となり進学先を考えてい た時に、幼い頃から触れあってきた写真というものを基礎から勉強してみたいと考え、九州産業大学の写真・ 映像メディア学科に進学した。

大学では、今まで興味を持っていた風景写真について「モノを見る位置や距離感、そのモノと自分との関 係性も含め、理解を深めることの大切さを学び、自分の表現に結び付けることができている」と話す。「自分が その時に感じた感覚を残し、その時に感じた感覚を蘇らせることを意識している」とのこと。インスタレーショ ン作品では、展示を観た人がその日その時でしか感じることができない"その瞬間"と、写真の中に残した"瞬 間"が混ざり合うことで自分の感じた一期一会の"その瞬間"を意識してもらえる展示を表現していると話して くれた。

卒業制作では「霧と樹木と自分が重なり合う瞬間」を表現した。霧は瞬間として生まれ消えていくモノ、樹 木はその場に留まり続けるモノ。そこに自分という存在が介在したその瞬間を表現した。「写真という一枚の 紙にしてしまうと自分が向き合った感覚よりも遠くに感じ、寂しさを感じてしまうことがあった。でもそれが群 れとして大量にあると遠く感じていたものが鮮明により近くに感じるようになった」と話す津高さん。

展示をしたら伝わると思っていたことが、案外伝わらないことを経験してきた。その経験をしたことで、改め て"伝えたい"という思いはより強くなった。今後は新しい環境に入っていくので、風景写真だけではなく、自分 の身近にあるモノに目を向けて表現を続けていきたいと話してくれた。

その時、その瞬間、そのモノとの邂逅で自分が感じたコト。津高さんは今日も多くの初めましファーストコン タクトとの出会いを残し、伝えてくれるのだろう。

文 村上博史

津髙 凛優 TUDAKA RINYU



2000年生まれ 大分県出身

大学在学中、同志と日本一周をした事をきっかけに風景写真を始 める。以来、とどまるもの。変化するもの。消えゆくものに着目し、異 なる時間軸を持つそれらが合わさる瞬間をカメラという装置を使 い、記録している。

2019年 九州産業大学入学 博多阪急8階ユトリエ"そうぞう飛行。 学内展"人間と環境。 学内展"てんかい。 ギャラリーpozog 2023年 九州産業大学卒業







